

平成23年度伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会の「協議のまとめ」

平成24年3月 教育改革室

1 少子化の状況について

伊勢志摩地域の中学校卒業生数は、平成23年3月には2,508人でしたが、平成27年3月には2,308人となり、200人（4～5学級）程度減少することが見込まれています。平成32年3月には2,006人となり、平成23年3月と比べ、500人（約10学級）程度減少することが見込まれています。

このことから、平成27年度の伊勢志摩地域全体の県立高等学校の学級数は、平成23年度（43学級）より4～5学級程度減少し、38～39学級程度となることが予想されます。具体的な状況は次のとおりです。

- (1) 伊勢市内地域は、これまでの生徒の希望状況や各地域の少子化の状況等を考慮に入れ、27～29学級程度が見込まれます。
- (2) 鳥羽・志摩・南伊勢地域は、これまでの生徒の希望状況や各地域の少子化の状況等を考慮に入れ、9～11学級程度が見込まれます。

また、平成32年度の伊勢志摩地域全体の県立高等学校の学級数は、平成23年度（43学級）より9～11学級程度減少し、32～34学級程度となることが予想されます。具体的な状況は次のとおりです。

- (3) 伊勢市内地域は、これまでの生徒の希望状況や各地域の少子化の状況等を考慮に入れ、23～26学級程度が見込まれます。
- (4) 鳥羽・志摩・南伊勢地域は、これまでの生徒の希望状況や各地域の少子化の状況等を考慮に入れ、7～10学級程度が見込まれます。

2 今後の方向性

子どもたちの学習ニーズに応じた多様な選択科目を開設し活力ある教育活動が展開できること、学校行事等の諸活動が円滑かつ効果的に実施できることなどの観点から、高等学校には一定の規模が必要です。

今後、伊勢志摩地域では、中学校卒業者数が大幅に減少しますが、単純に高等学校の学級数を減じるだけでは、学校としての活力低下につながるおそれがあります。

特に、現在、南伊勢高等学校、鳥羽高等学校、志摩高等学校、及び水産高等学校の4校は、1学年3ないし4学級規模であること、また近年定員を満たせないこともあり、これ以上学級数を減じると、適正規模の維持が困難な状況にあります。

また、上記4校以外の学校においても、学級減を続けると、生徒の多様なニーズに対応した学習環境を提供することが難しくなる可能性があります。

こうした点を踏まえ、伊勢志摩地域の県立高等学校の魅力化・活性化をはかり、子どもたちがこれからもいきいきと学ぶことができる学習環境を整えるため、平成24年度は、伊勢志摩地域全体における高等学校のあり方について、普通科と専門学科の割合、普通科と専門学科及び総合学科のあり方、当地域における高等学校の配置などの視点から総合的に検討するとともに、平成27年度を目途とした小規模校の統廃合や分校化等の具体策をまとめます。